

式 辞

平成二十八年度畿央大学卒業証書・学位記・修了証書授与式において、それぞれの証書を授与される卒業生、修了生の皆さん、誠におめでとうございます。

ご来賓の皆様のご臨席を賜り、名誉学園長、学部長、学科長、事務局長をはじめとする教職員一同とともに、卒業証書・学位記・修了証書授与式を挙行し、皆さんの門出をお祝いできることは、畿央大学としても大きな喜びとするところであります。

さらに、この日を迎えるにあたり、これまでの長い間卒業生・修了生の皆さんを見守り、励まし支援されてこられたご家族および関係者の皆様方にもお慶びとお祝いを申し上げます。

さて、卒業される皆さんは、本学に入学されたころのことを思い出してください。学部に入學された皆さんは、長かった受験勉強を終え、将来への夢と大学への期待といくばくかの不安をもって入学されたことと思います。大学院ならびに専攻科に入學された皆さんも同様に、人生の次のステップへの夢と期待をもって入学されたことと思います。そのころに持っておられた将来への夢は、その実現に向けて具体的になり、今日はその道に歩み出す出発の日を迎えられました。

在学期間中に夢の実現への道筋をつけることができたのは、これまでの皆さんの努力によることはもちろんですが、切磋琢磨した学友の皆さんがいて、教職員の方々のご指導・ご支援があって、初めて達成できたことである、そのことを深く心に刻んでいただきたいと思います。そして、これからの人生において、夢の実現に向かって歩み続けていただきたいと切に願っています。

さて、夢の実現への道筋をつけるために、畿央大学においては、幅広い教養とそれぞれの分野の専門知識・実践的な知識を学んでこられました。

知識を「学ぶ」ということについて、皆さんに期待していることがあります。

一つ目は、知識を体系としてとらえる視点を持つてほしいということです。とくに専門分野の知識は、個別の事柄に関する知識をまず理解することが必要ですが、個別の知識は他の知識とどのように関係しているのかを知ることが必要です。そしてそれらがどのように関係しているかが分かると、個々の知識をより良く理解でき、説明できるようになります。

さらに、知識の集まりとしての捉え方も重要です。個々の知識とそれらの関連、さらに全体と要素、手続きや時間的に変化する振舞いとしての理解など、このような捉え方を「体系」的な、あるいはシステムの捉え方といますが、学びの過程において、単に個別に断片的に知識を学ぶのではなく、知識の「体系」として理解を深めていただきたいと思います。

二つ目は、知識を「学ぶ」姿勢についてです。知識は、始めから自明のことの蓄積ではありません。この知識は、「何なのか」という疑問を常に持っていることが重要です。

なにも難しいことではありません。小さい子供が、「これ何」「これ何で」という言葉を発する、その感覚です。その感覚を常に持ち続けることが、「分かる」ということにつながります。自ら疑問をもって自ら納得できるまで考え続ける姿勢です。

体系的な理解の追求と、疑問を持ち続ける学びの姿勢は、建学の精神の一つである「知をみがく」ことの具体的な実践であると考えています。

三つ目は、学ぶという姿勢を、学習や研究の時だけでなく、人生を生きていくすべての局面において持ち続けていただきたいということです。

現場での実習や地域連携の活動の中で、実践的活動の中で、色々と学ぶことがあったという際の「学び」です。

そのような学びを積み重ね、豊かな人間性を育てていただきたい思います。この積み重ねを通して、建学の精神に言うところの「徳をのばす」ことが育まれると考えております。

さて、今日、卒業される皆さんが歩まれる日本の社会は、急速に変わりつつあります。日本の人口が減少し、少子高齢化と東京一極集中による地方衰退が大きな社会問題となっています。また、世界規模での政治と経済も急激に変わりだしています。情報通信技術の発展も急激です。身近なところでは、スマートフォンの普及やその利用・活用が社会生活を急速に変えつつあります。

このように急激に変化し将来の予測が難しい社会は、夢と希望をもって歩み出されようとする皆さんにとっては、順調には歩めない困った社会なのでしょうか。

そのようには思えません。何が問題であるかを自ら考え、解決を図る、他の人と力を合わせて解決を図る、そしてより良い社会に変えていくという、チャンスが沢山ある社会とみることができます。

卒業される皆さんお一人お一人が、今後も「学び続けられ」、ご自身の夢の実現に向かって歩み続けられ、成長されることを心から期待しております。

そして、自分自身の行いを、生きざまを、振り返る際には、建学精神「徳をのばす」、「知をみがく」、「美をつくる」に立ち返り、徳をのばせているのか、知をみがき続けているのか、美をつくれているのかと、ご自身の生きざまを見直していただければ、建学の精神が皆さんの成長を図る良い物差しになると期待いたします。

このことが、建学の精神に基づく教育を行う冬木学園の願いであり、今日門出を迎えられた皆さんへの大きな期待でもあります。

これから皆さんが進む道は大きく分かれていきます。しかしその道は将来交差することもあり一緒になることもあるかと思えます。これからも、畿央大学で結んだ人と人とのつながりを大切な絆として夢の実現に向かって歩み続け

てください。

皆さんの母校となった畿央大学が社会から評価されるのは社会に送り出した卒業生の、社会における活躍・社会への貢献によってです。皆さんが畿央大学の卒業生として誇りを持って活躍し貢献されることを重ねて期待するとともに、畿央大学は皆さんの活動を応援し続けます。

最後になりましたが、本来でありましたらこの場にいたはずの教育学部の寺岡頑希さんがおられないことは痛恨の極みであり、ご家族のお気持ちは察するに余りあります。卒業される皆さんへのご家族の想いを、学園創設者である冬木智子名誉学園長の「人は深い愛で生かされている」という言葉と共に胸に深く刻み、今後の人生の糧としていただくことを切に望みます。

本日は誠にありがとうございました。

平成二十九年三月十五日

畿央大学 学長 冬木正彦